

クラス	319	担当教員	丸山真司
テーマ	体育は何を教え学ぶ教科かー運動文化の学びと「ともに生きる」体育実践の創造ー		
著書・論文  研究課題等	<p>【研究課題】体育の授業づくり・カリキュラム開発と多様性を包摂する「インクルーシブ体育」実践の解明</p> <p>【主な著書】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・『体育のカリキュラム開発方法論』（2015）（単著），創文企画</li><li>・「体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相ー開発主体の問題に着目してー」（2017），岡出美則・友添秀則他編『『新版体育科教育学の現在』，創文企画, 27-40</li></ul> <p>【主な論文】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州における Bewegte Schule の構想と実践」（2013），『愛知県立大学教育福祉学部論集』第 61 号, pp. 135-144</li><li>・「『体育は何を教える教科か』を問い直す」（2016），日本教科教育学会誌』第38巻第4号，日本教科教育学会，111-116</li><li>・「体育教師のカリキュラムづくりに向かう『実践的認識』の形成-変容プロセスー小学校教諭 S 氏のライフヒストリー・アプローチ」（2021），『愛知県立大学教育福祉学部論集』第 69 号, 57-67</li><li>・「運動文化の学びを『ともに生きる』につなぐ体育実践の創造」（2023），愛知県立大学教育福祉学部論集 71 号，1-14</li></ul> <p style="text-align: right;">（等々）</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：「みんながわかるーできる」，教師によるカリキュラム開発，異質協同の学び，授業づくり研究，運動文化の学び，「ともに生きる」体育実践			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>本演習では、「なぜ学校で体育をするのか」、「人はなぜスポーツをするのか」、「体育は何を教え学ぶ教科か」、「多様な背景をもつ子どもたちがともに学び合う体育とは」という問いに対する探究をしていきたい。同時にテーマに接近するための研究方法や、研究（卒論）及び教師になったときに必要な基礎的な力（例えば、必要な情報を収集し整理する力、事実や現象を分析し論理的に記述する力、討論・対話する力）を身につける。また、世界のいたるところで分断が広がる中、世界的な視野に立って「ともにつながり、ともに生きる」体育実践の創造に向けてゼミ生とともに考えていきたい。</p> <p>前期は、優れた実践記録と体育科教育学の基本的な文献を「読み」－「まとめ（記述）」－「討論（集団的検討）する」というサイクルの中で、子どもの運動や学校体育の今日的課題を探る。同時に研究方法についても学んでいく。後期は、各自あるいは各グループで関心のあるテーマや課題を設定し、文献・情報を収集して、研究発表ー集団討議を中心に進める。最終的に「ゼミ論文」を作り上げ、卒論に結びつけていく。</p> <p>優れた実践や子どもと格闘し面白い実践を創り上げている教師や研究者との出会いや交流はとても重要である。前後期を通じて、フィールドに出かけ実践を観察したり、現場教師や研究者と交流も計画したい。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミは、ゼミ生自らが創る「学びと研究」のチームです。</p> <p>「マルゼミ」の特徴は以下の通りです。①ゼミ生自らが抱いた興味・関心を掘り下げ、徹底的に追求する。②なぜ、なぜ、なぜと問い続け、ゼミというチームでそのなぜに挑みかかり探究する。③学びと遊びを大切にする。ゼミ生たちによる異質協同の学びとみんなで遊ぶことを大切にするゼミ。④出会いー交流(対話)を大切にする。他学部・他大学の学生、現場の教師、研究者、多様なバックグラウンドを持つ子どもたちや住民との出会いー交流の中で教育や体育の問題を考える。</p> <p>ゼミは学生にとって大学生活の中でとても重要な活動の場です。足元から世界を見据え、これからの体育・スポーツを考える、厳しくも楽しいゼミを学生と一緒に創っていきたいと思っています。</p>			